




日野市立日野第四小学校

校長 三浦 寛朗

令和6年12月号

学校 Web ページ

<https://www.hino-tyky.ed.jp/e-hino4/>

周年記念
キャラクター



ふじっち

学校標語 「夢中になれる 夢中にさせる 日野四小」

これからの時代を生きていく力

校長 三浦 寛朗

朝夕の寒さが一段と厳しくなり、校庭の木々も葉を落とし始めています。マフラーを巻いたり、ダウンジャケットを着たりして登校する子供たちも増えています。本格的な冬の到来を感じる季節となりました。

11月2日(土)に行われたマイプラフェスタには、今年度も多くの保護者の皆様、地域の皆様にご観覧いただきました。子供たち一人一人が自分の学びの発表を行うようになって3年目ですが、今年度は今まで以上に保護者の皆様から子供たちへ、質問や感想を伝える場面が多かったように感じます。感想カードを書いて子供たちに渡して下さった方も多かったという話も聞きました。保護者の皆様が質問したり、感想を伝えたりすることや、感想カードを書いて渡して下さることが、が、たくさんの子供の励みになっています。みなさんのおかげで、その質問を待ってました!とばかりに自分が探究してきたことをより詳しく発表する子や、自分がもらった感想カードの枚数を笑顔で数える子、どんな感想が書かれているのか一枚一枚じっくりと真剣な表情で読んでいる子など、子供たちが輝く場面をたくさん作ることができました。保護者の皆様からのアンケートにも、自分が探究したことを発表することで子供たちが成長していることや、マイプランスクールの取組を今後も続けていってほしいといったことが多数書かれていました。ありがとうございました。しかし、マイプランスクールは何のためにやっているのか、良さがよく分からないといったご意見もありました。改めてマイプランスクールを行っている目的、想いを書きたいと思います。

変化の激しいこれからの時代に対応していくためには、物事を自分事として捉え、自分なりに問い立てて情報を集め、自分なりに考えて、自分なりの答えを見いだすことが大切です。これはまさに、探究的な学習の学びのサイクルと同じです。つまり、変化が激しく予測困難な社会に対して、自分らしい生き方を選択して幸せに生きていくためには、「探究する力」を子供時代から身に付けていく必要があると考えられます。

また、近年、教育の場でクローズアップされている「非認知能力」の育成にも、マイプランスクールは大きく関係していると考えています。非認知能力とは、テストなどでは数値化することが難しい能力を意味しています。具体的には、やる気、忍耐力、協調性、自制心など、人の心や社会性に関係する力です。自分を動機づけて高めようとしたり、自分の感情をコントロールしたりしながら、自分と他者を大切にできる非認知能力の育成が、変化の激しい社会のなかで求められています。

非認知能力	具体的な能力
自己認識	やり抜く力、自分を信じる力、自己肯定感
意欲	学習志向性(学び・成長することを目標にする傾向)、やる気、集中力
忍耐力	ねばり強く頑張る力
クリエイティビティ	創造力、工夫する力
セルフコントロール	自制心、理性、精神力
社会的能力	リーダーシップ、協調性、思いやり
対応力	応用力、楽観性、失敗から学ぶ力

(参照：寺島知春、非認知能力をはぐくむ絵本ガイド180。秀和システム、2022)

知識は、何度も繰り返したり、反復練習したりすることで獲得することもできます。しかし、その知識を活用したり、人に説明したり、友達と一緒に問題解決したりするほうが、知識はより安定的に獲得されるということが、科学的に明らかになりつつあります。問題解決に主体的に取り組んだり、ねばり強く探究したりというように、非認知能力を駆使することで、認知能力も伸びるということなのです。

私たちはいつでも、子供たち一人一人にこれからの時代を生きていく力、自分の人生を主体的に、幸せに生きていく力を育みたいと考えています。そのために、マイプランスクールの取組をこれからも進めてまいります。ぜひ、毎月のマイプランスクールや2月のアウトプットデーで、子供たちの成長を見守ってください。どうぞよろしくお願いいたします。